

第2分団が東京都代表として出場

10月12日(日)第21回全国消防操法大会が東京ビッグサイトで開催され、わが町の消防団第2分団(箱根ヶ崎地区)が東京都代表として出場しました。

全国から集まった大勢の観客が見守る中、「自分たちの町は自分たちで守る」という精神のもと、都の代表としてふさわしい高い消防技術を披露してくれました。我々議員も団員家族、地域有志、町関係者など大勢の方と一緒に声援を送りました。



審査終了後に行われた記念撮影

学校給食への「事故米」使用はない

10月10日、羽村・瑞穂地区給食組合議会の臨時会が開催されました。その際、管理者より、「事故米」が混入した食用でんぷんが使用されていた可能性のある加工食品について調査を行った結果、その使用はなかったとの報告がありました。併せて、米飯給食の「うるち米」「もち米」は岩手産であること、メラミン混入の乳製品を使用していないことも確認されました。

声の議会だよりをお届けいたします。

「朗読グループ 虹の会」の皆様のご協力をいただき、議会だよりをテープに録音し、ご自宅までお届けしております。録音時間はおおむね60分程度です。

ご希望のある方は議会事務局までお問い合わせ下さい。
お問い合わせ 議会事務局 TEL 557-7693(直通)



委員会視察報告

総務委員会

5月21日～23日

◎小野 芳久 ○石川 修
近藤 浩 上野 勝
青山 晋 尾作 武夫

◎委員長 ○副委員長

地域の特性を生かした環境施策

福岡県大木町

大木町は28年までに焼却・埋立てしない町を目指していた。そこで農家の多い町の特性を生かし、生ごみや尿などをバイオガスや液肥に再利用する循環センターを建設した。この液肥は農家に還元され、ブランド化までされている。ごみ減量は住民の協力が欠かせない。大木町の住民還元型の環境施策はわが町にも大いに参考になった。

なお、翌日は、佐賀県多久市の行政機構改革の視察研修を行った。



おおき循環センター「くるるん」の視察

自分たちの手で町おこし

佐賀県唐津市

唐津市の町おこしは住民が担っていた。町の活性化に意欲ある住民がNPOを組織して「町づくり補助金」を申請し活用する。特にNPO団体を組織するためのNPOまであることには驚いた。わが町では住民活動の多くは町内会単位である。唐津市の住民参画の方法はわが町も参考にすべきである。